

第 13 節 臓器等移植

臓器移植

臓器移植は、心臓や肺、腎臓などの臓器の重い病気の患者に対して、他の人から提供された臓器によって回復をはかる医療であり、ドナー（臓器提供者）の尊い意思と、関係者はもとより広く社会の理解と支持があって成り立つ医療です。

心停止後の眼球（角膜）移植と腎臓移植は、30 年以上前から行われてきましたが、平成 9 年 10 月に「臓器の移植に関する法律」（「臓器移植法」）が施行されたことから、脳死した者から心臓や肺、肝臓、小腸、腎臓、膵臓及び眼球（角膜）についても移植が行なわれるようになりました。

現状と課題

1 移植希望者

心臓や肺、肝臓、小腸、腎臓、膵臓の移植を希望して、日本臓器移植ネットワークに登録をしている人は、平成 20 年 1 月末現在、12,650 人になっており、そのうちの 12,075 人（95.5%）が腎臓を希望しています。国内での死体腎移植は年間に 150 例程度で、移植希望者の待機期間は非常に長くなっています。心臓移植や肝臓移植などを希望する患者も増え続けていますが、臓器提供は非常に少なく、移植を受けられない多くの患者が亡くなっています。

2 推進体制

本県における臓器移植を推進するため、昭和 63 年に高知県腎バンク協会が設立され、平成 7 年には、移植コーディネーターを配置し、県民や医療関係者に対する普及啓発活動、臓器移植に関わる医療機関及び搬送機関等の調整など、臓器提供を円滑に行うための取り組みを行っています。

また、眼球（角膜）については、県内のライオンズクラブが中心となって設立された NPO 法人高知アイバンクにおいて眼球（角膜）提供の登録や斡旋が行われています。

3 医療提供施設

県内での脳死下臓器提供施設は、高知赤十字病院、高知大学医学部附属病院、高知医療センターの 3 施設となっています。

特に、高知赤十字病院では、平成 11 年 2 月に全国で初めての脳死下における臓器摘出が行われ、18 年 12 月には 2 例目（全国では 50 例目）となる臓器摘出が行われました。

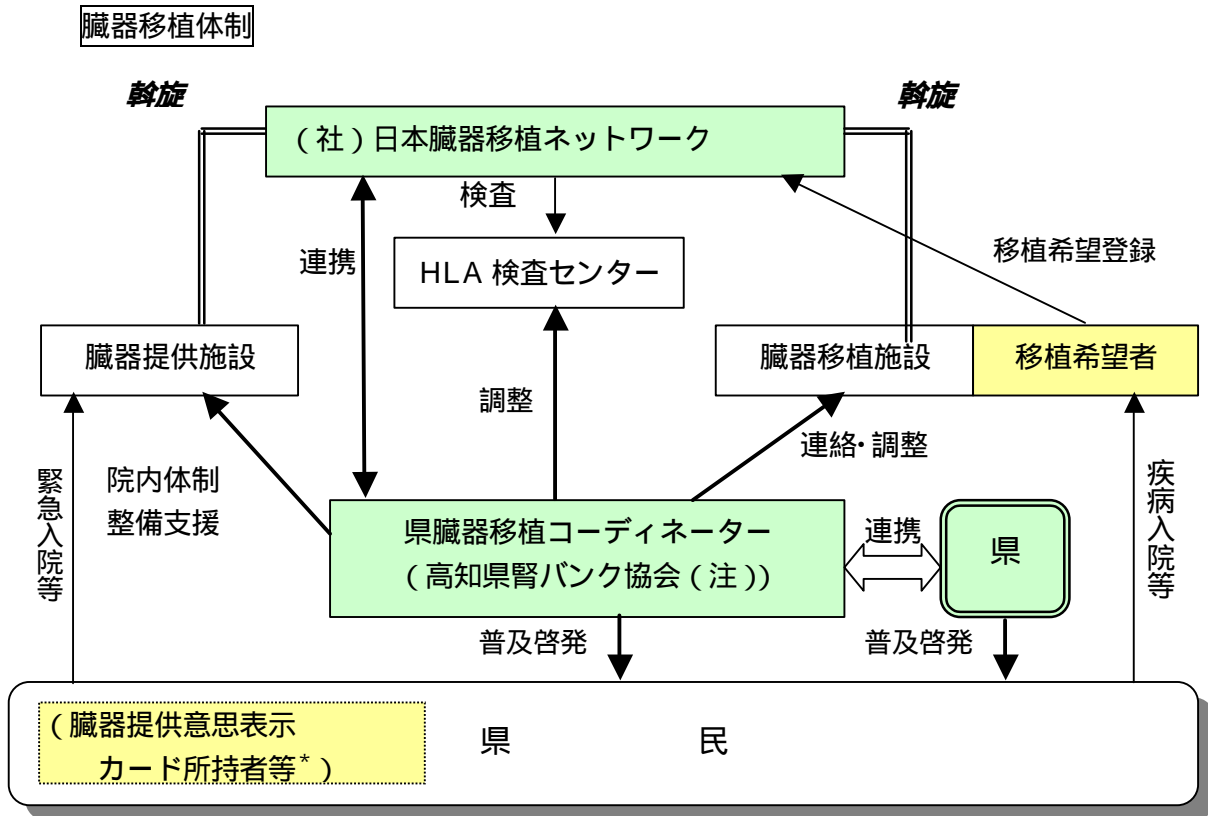
また、臓器移植法に基づき臓器移植を行うことのできる施設は、高知医療センターと高知大学医学部附属病院の 2 施設となっており、腎移植は高知医療センターにおいて、角膜移植については高知大学医学部附属病院において行われています。

4 医療関係者の連携

移植は、脳死やこれに近い病態の患者家族への情報提供や支援、的確な脳死判定を行う必要があります。このため、情報提供を行う医療関係者の理解と資質の向上及び医療機関の体制整備が必要です。

5 県民の意識

平成 18 年に行った高知県腎バンク協会のアンケート調査では、8 割以上の方が「臓器提供意思表示カード」の存在を知っていました。しかし、「臓器提供意思表示カード」を記入し所持している率は、10.2%にとどまっており、脳死や臓器提供については十分な理解が進んでいないことがうかがわれます。



* 提供できる臓器：脳死下 心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、小腸、眼球
心停止後 膵臓、腎臓、眼球

(注) 眼球(角膜)については、NPO 法人高知アイバンクが、普及啓発、献眼登録、幹旋等の活動を行っている。

対 策

1 県民に対する啓発活動の強化

日本臓器移植ネットワーク、高知県腎臓病患者友の会、高知腎移植者友の会など関係団体と協力して、街頭キャンペーンや講演会等を開催し、県民に対する正しい知識の啓発を行います。

臓器提供者の意思が尊重されるよう、医療保険の被保険者証や運転免許証に添付することのできる「臓器提供意思表示シール」や「インターネットによる臓器提供意思登録制度」の普及啓発を行います。
(県・関係団体)

2 移植医療実施のためのネットワークの充実

医療関係者に対し、研修会を開催するなど、臓器移植に理解と協力を求め、院内コーディネーターの育成を行います。
(県・関係団体)

骨髄移植・さい帯血移植

骨髄移植は、白血病や再生不良性貧血などの難治性血液疾患に対して、その病気に冒された骨髄細胞を健康な骨髄細胞に取り替える医療であり、患者（骨髄移植希望者）とドナー（骨髄提供者）の白血球の型が一致する健康な骨髄の提供を必要とする医療です。

また、骨髄移植を補完するものとして、出産直後のへその緒や胎盤に含まれているさい帯血の移植をするさい帯血移植も行われています。

現状と課題

1 骨髄移植医療の状況

骨髄移植は、患者とドナー（骨髄提供者）の白血球の型（HLA型）が一致することが必要ですが、兄弟姉妹間で25%、非血縁者間では数百～数万分の1と移植できる確率は非常に低くなっています。

このため、一人でも多くの患者に骨髄移植のチャンスが広がるよう、一人でも多くのドナー登録を目指した普及啓発活動が行われています。

2 骨髄移植ドナー登録者及び移植希望者

平成20年1月末現在、日本骨髄バンク（骨髄移植推進財団）へのドナー登録者は301,768人、移植希望者（国内合計）は1,383人となっており、うち本県では、ドナー登録者は1,791人、移植希望者は5人となっています。

白血球の型の適合率から、今後もさらなる登録者数の増加に向けた普及啓発に取り組む必要があります。

3 普及啓発

ドナーの登録は、高知県赤十字血液センター献血ルーム「ハートピア やまもも」や、安芸、須崎、幡多の各福祉保健所で行なうことができます。また、高知県骨髄バンク推進協議会が中心となって、理解と協力を求め啓発活動や骨髄移植ドナー登録説明員の育成、ドナー登録会を行っています。

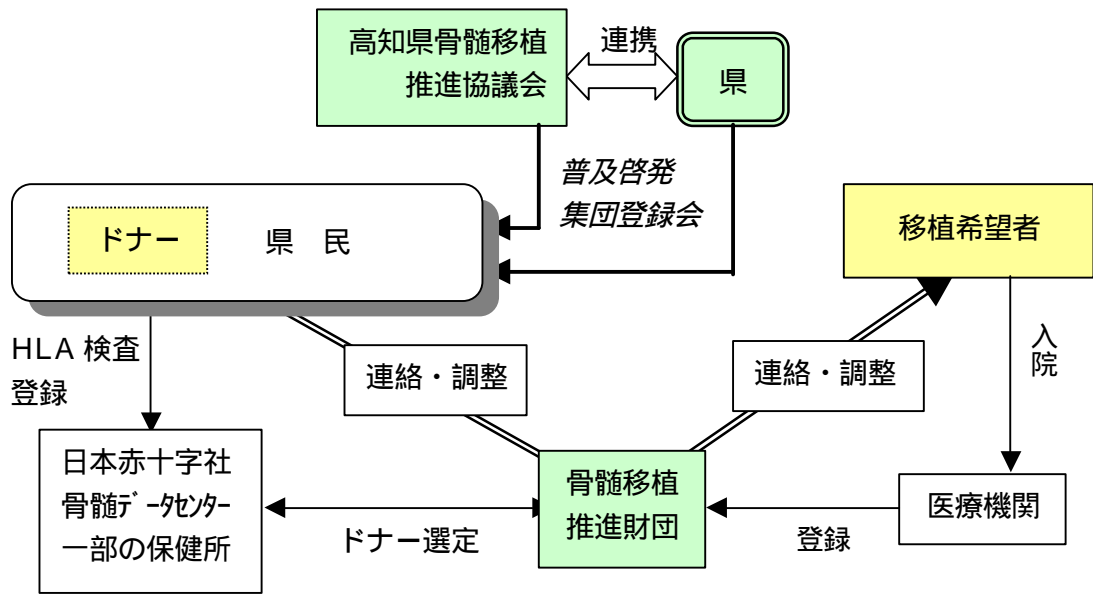
4 さい帯血移植

さい帯血移植は、日本さい帯血バンクネットワークが中心となり、さい帯血の情報を管理しており、平成18年度の提供者数（さい帯血公開数）は26,816件、移植件数は728件となっています。

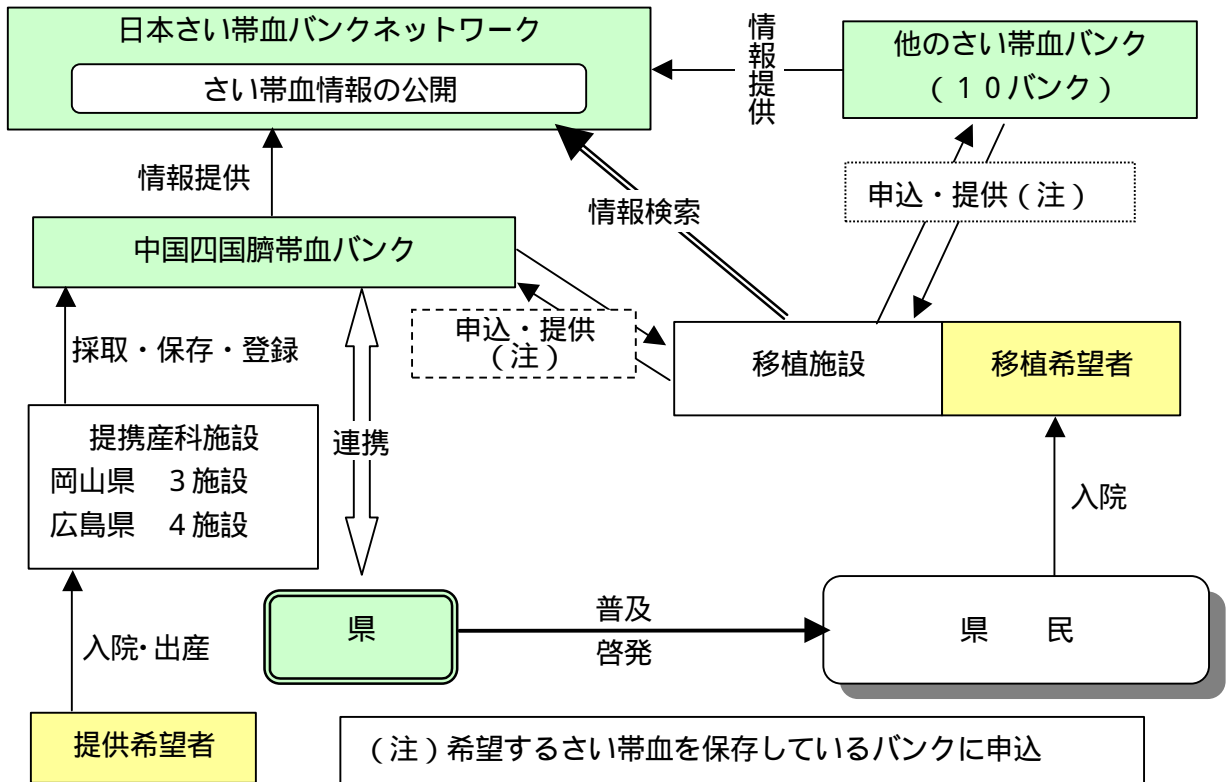
さい帯血の採取には、移植治療に使用するまで処理と保存に無菌管理が必要といった、厳格な基準があること等から、さい帯血を提供できる医療機関は本県にはありません。

さい帯血の移植については、高知大学医学部附属病院で行われています。

骨髄移植体制



さい帯血移植体制



対 策

1 県民に対する普及啓発活動の強化

高知県骨髄バンク推進協議会、骨髄移植推進財団等関係団体と連携して、県民に対して、骨髄提供について正しく理解していただくための普及啓発活動を行います。

(県・関係団体)

また、多くの県民にドナー登録をしていただくために、県の福祉保健所や高知県赤十字血液センター献血ルーム「ハートピア やまもも」での登録について広報活動を行うとともに、県下各地において、骨髄バンクドナー登録会、献血併行型ドナー登録会を開催します。

(県・関係団体)

2 さい帯血移植医療の促進

日本さい帯血バンクネットワーク等関係機関と連携し、さい帯血移植の促進を図ります。

(県)

